

令和 3 年 5 月 18 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K10640

研究課題名(和文)感染症パンデミック発生時に国際援助を担う看護職の教育プログラム開発

研究課題名(英文) Development of a pre-education program for international support nurses during a pandemic

研究代表者

松永 早苗 (MATSUNAGA, SANAE)

東北大学・医学系研究科・大学院非常勤講師

研究者番号：30614581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、エボラ出血熱発生時に国際支援を担った医療職に「看護職の困難と対処」について半構造化面接を行い、その結果を質的に分析した。質的に分析した結果は、パンデミック発生時に国際支援を担う看護職の教育プログラム試案を作成する基とした。作成した教育プログラム試案は、感染症の専門家の評価を得て、改善点を修正し、教育プログラムとして開発した。本研究結果は、質的研究を基にプログラム試案を作成し、さらに専門家からの評価を得たことで、より信頼性が高まり、今後のパンデミック発生時の看護職の活動や教育に活かされると考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、看護職の専門性や役割を活かすために看護職の実際の経験を基に作成された教育プログラムである。エボラ出血熱発生後に日本政府は、国際社会に脅威となる新たな感染症が発生する可能性から、日本で強化すべき事項の一つとして国際社会において活躍する我が国の感染症対策に関わる人的基盤の充実をあげ、パンデミックに対応できる人材育成を急務としてきた。本準備教育プログラムは、パンデミック時に国際支援を担う看護職の困難な状況を予期して、対処を学ぶことを特徴とする事前研修である。今後起こりうる新興感染症の対策を担う看護職の育成に大いに活かすことができると考える。

研究成果の概要(英文)：This study conducted semi-structured interviews on "difficulties and coping of nurses" with health care professionals who were responsible for international support during the Ebola outbreak, and qualitatively analyzed the results. The results of the qualitative analysis were used as a basis for developing a draft educational program for nurses who would be responsible for international support during a pandemic. The draft educational program was evaluated by experts in infection control, and improvements were made and developed into an educational program. The results of this study are more reliable because the draft program was developed based on qualitative research and evaluated by experts, and will be used in the future activities and education of nurses in the event of a pandemic.

研究分野：感染管理、公衆衛生

キーワード：パンデミック 国際支援 看護職 教育プログラム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

多くの人々が渡航できる時代へと変化し、感染症は世界的に広がりを見せ、2030年までのアジェンダとして感染症の低減を目指すことが示され、薬剤多剤耐性菌や国際的社會に脅威を与える感染症に対する対策が課題であった。

国際社會に脅威を与えた感染症として、2014年から西アフリカ諸国でエボラ出血熱が発生した。エボラ出血熱流行の課題として、発生国に感染症の知識・対策に精通した専門家が少なく、早期に実践的な活動を展開できる人材の不足があげられ、チームで完結して感染対策を実施する重要性が報告された(国境なき医師団報告書, 2016)。そこで日本政府は、2015年にロジスティックを含めた自己完結型の国際緊急援助隊感染症チームを新設した。これら感染症専門家を、世界のパンデミックに対応できる人材として育成することが急務とされている(国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議, 2016)。そして、感染対策を効率的に実践するためには、医療チームの中心となる看護師の役割が大きい。

そこで、パンデミック発生時に看護師を活用して国際援助を効率的に実施するには、過去のパンデミックの経験に基づく看護職向けの教育が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、パンデミック発生時に国際支援を担った看護職の困難とその対処を明らかにし、その結果を基にパンデミック発生時に国際支援を担う看護職の準備教育プログラム(以下準備教育プログラムと略す)を開発することである。

3. 研究の方法

(1) 方法

研究の第1段階では、エボラ出血熱流行時に国際支援を担った看護職と看護職以外の医療職を対象に、看護職の困難と対処について半構造化面接を行った。看護職の逐語から、困難と対処の記述に焦点をあてコード化し、コードの類似性や差異性に着目してサブカテゴリー、カテゴリーを抽出し、比較継続にて分析を行った。看護職以外の医療職の逐語は、看護職を客観的に捉えた貴重なデータとして追加、分析した。

研究の第2段階では、研究第1段階で明らかになった困難と対処を基に準備教育プログラム試案を作成し、フォーカスグループ・インタビューと評価表を用いて、準備教育プログラム試案について専門家から評価を得た。

(2) 倫理的配慮

研究対象者には、研究の趣旨や研究協力の自由意志と拒否権、個人情報への厳守等について口頭と文書で説明し、同意書を得て実施した。研究結果は、関連する学会での発表、論文として公表する旨を説明した。本研究は、第1段階(宮城大第1208号)・第2段階(宮城大第419号)とも宮城大学研究倫理専門委員会の承認を得た。

4. 研究成果

(1) 研究第1段階

研究第1段階では、看護職3名、看護職以外の医療職6名を対象とし、エボラ出血熱発生時に国際支援を担った看護職の困難として、【支援に行く前からの恐怖】、【根強い周囲の反対】、【現実化する恐怖】、【業務の過酷さ】、【感染を食い止められない無力感】、【支援後の心のアンバランス】、【活かされない教訓】の7つのカテゴリーが抽出された。これらの困難への対処として、【経

【検知を駆使して精神状態を保つ】、【周囲との折り合い】、【自分の身を守るための工夫】、【現地に即した柔軟な姿勢】、【心のアンバランスを調整】、【経験者として社会に発信】の6つのカテゴリーが抽出された。

(2) 研究第2段階

研究第2段階では、パンデミック発生時に国際支援を担う予定の看護職が、第1段階で明らかになった困難な状況を予期的に理解し、その困難を自分自身で乗り越えていけるような対処を考え深めることができる構成とした。

プログラム参加者が、パンデミック発生時に国際支援を担う看護職の困難をより理解できるように、【支援に行く前からの恐怖】、【根強い周囲の反対】、【現実化する恐怖】、【業務の過酷さ】、【感染を食い止められない無力感】、【支援後の心のアンバランス】、【活かされない教訓】を支援前、支援中、支援後に分けた動画教材を作成した。【業務の過酷さ】は、研究第1段階のサブカテゴリー《感染症との判別》《ノンタッチルールの難しさ》、《2人1組での食い違い》《防護具着用中の辛さ》を基に、実技にて困難を理解してから対処を討議する構成とした。《感染症との判別》《ノンタッチルールの難しさ》の困難は、カード教材で「トリアージカード」「ノンタッチルールカード」を作成して、ゲーム感覚で困難を体験できる内容とした。《2人1組での食い違い》《防護具着用中の辛さ》は、2人1組で個人防護具（タイベック製品）を着用して患者ケア（吐物の処理、血圧測定）を実施する内容とした。参加者は、これらの教材や実技を通して困難を理解したのちに、その後対処をグループワークで討議し、困難とその対処の情報を共有する。特に困難への対処は、参加者により異なることが考えられ、グループワークを行うことで多様な対処について討議、共有できると考えた。そして、最後に進行役（研究者）が、研究第1段階の結果である困難とその対処の解説を実施する内容とした。

準備教育プログラム試案は、6名の専門家からインタビューと評価表による評価を受けた。評価では、多くの点で賛同を得たが、改善点である「国際支援の経験があるファシリテーターの配置」や「研修の時間配分」等を準備プログラム試案に加筆修正し、準備教育プログラムの開発に活かした。



図1 作成したビデオ教材の一部



図2 トリアージカード

(3) 考察

準備教育プログラムは、質的研究を基に作成し、専門家からの評価を得たことで、より信頼性が高まり、今後のパンデミック発生時の看護職の教育に活かされると考える。

<引用文献>

国境なき師団報告書：数値でみるエボラ出血熱対応

http://www.msf.or.jp/library/pressreport/pdf/20160404_Ebola.pdf (2017年5月26日閲覧)

国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議、

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokusai_kansen/taisaku/keikaku.html (2017年7月1日閲覧)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Sanae Matsunaga |
| 2. 発表標題 Competencies necessary for nursing professionals responsible for international aid during infectious disease pandemic |
| 3. 学会等名 International Council of Nurses Congress 2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 石原 美和 (ISHIHARA MIWA) (10803976) | 神奈川県立保健福祉大学・実践教育センター・センター長 (22702) | |
| 研究分担者 | 押谷 仁 (OSHITANI HITOSHI) (80419994) | 東北大学・医学系研究科・教授 (11301) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|